

## 令和元年秋期 ITストラテジスト試験合格発表 分析コメントと今後の対策

(株) アイテック IT人材教育研究部 2019,12,20

10月20日(日)に行われた令和元年秋期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系5試験の合格発表がありました。同時に発表された得点分布などの統計データの分析をもとに、ITストラテジスト試験の合格発表コメントをお知らせします。

### ■ITストラテジスト試験試験 (ST)

[令和元年秋期のITストラテジスト試験 統計情報]

応募者	7,528人
受験者	4,938人
合格者	758人
合格率	15.4%

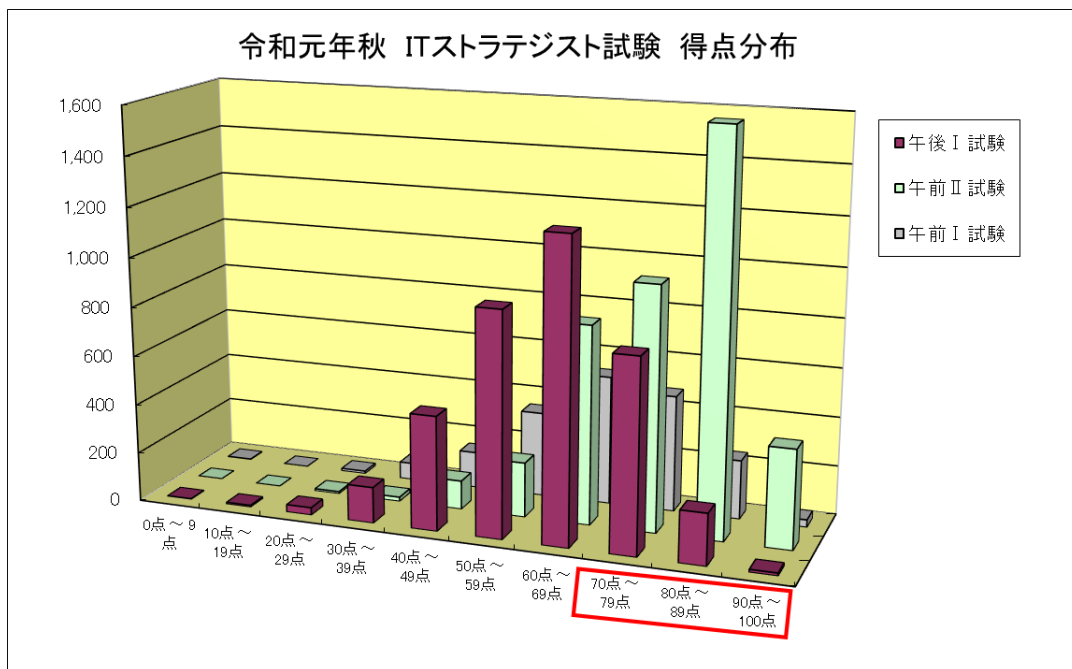
令和元年秋期のITストラテジスト試験の合格率は15.4%で前回の14.3%に対して増加しました。また、平成21年度からの現試験制度で最も高い合格率でした。

次に発表されたスコア分布の分析とグラフを示します。

(令和元年秋 ITストラテジスト試験 スコア分布)

得点	午前Ⅰ試験	午前Ⅱ試験	午後Ⅰ試験	午後Ⅱ試験	合格者
0点～9点	2	0	2	D 246	
10点～19点	0	0	7	C 526	
20点～29点	10	8	30	B 661	
30点～39点	69	17	146	A 758	
40点～49点	148	117	464		
50点～59点	346	223	907		
60点～69点	525	804	1,213		
70点～79点	473	985	779		
80点～89点	240	1,671	208		
90点～100点	30	401	11		
計	1,843	4,226	3,767	2,191	758
対前試験比率		229.3%	89.1%	58.2%	34.6%
午前Ⅰ免除者(概数)	3,095	62.7%			

合格者数	758	採点者数の割合	合格者数との差
午前Ⅰ60点以上合計	1,268	68.8%	510
午前Ⅱ60点以上合計	3,861	91.4%	3,103
午後Ⅰ60点以上合計	2,211	58.7%	1,453
午後Ⅱ-A評価	758	34.6%	0



午前I試験免除の人も増えてきましたが、得点分布を分析してみると、今回午前I試験の免除者は概算で3,095人(62.7%)おり、受験者の6割以上の方が午前IIからの受験となりました。

午前I試験で基準点(60点)以上の方は1,268人(受験者の68.8%)で、前回の71.0%から減っています。問題自体は前回と同じで少し難しかったといえます。

午前II試験で基準点以上の方は3,861人(受験者の91.4%)で従来と比べてかなり高く、前回の70.5%と比べてもかなり高い結果になっています。

午後I試験で基準点(60点)以上取れた方は58.7%で、前回試験の57.9%と比べて微増です。

午後IIの論述式試験で合格点(A評価)を取ることができた人は採点対象者の34.6%で、こちらは前回試験41.6%よりも下がりました。新技術に関連させた記述で苦戦した方が多かった可能性があります。

## ■令和元年秋期 ITストラテジスト試験 出題内容について

### (午前I試験(高度試験の共通知識問題))

高度試験に共通して出される問題30問は、従来どおり、すべて応用情報技術者試験(AP)から選ばれていて、テクノロジー系17問(57%)、マネジメント系5問(17%)、ストラテジ系8問(26%)という出題比率です。

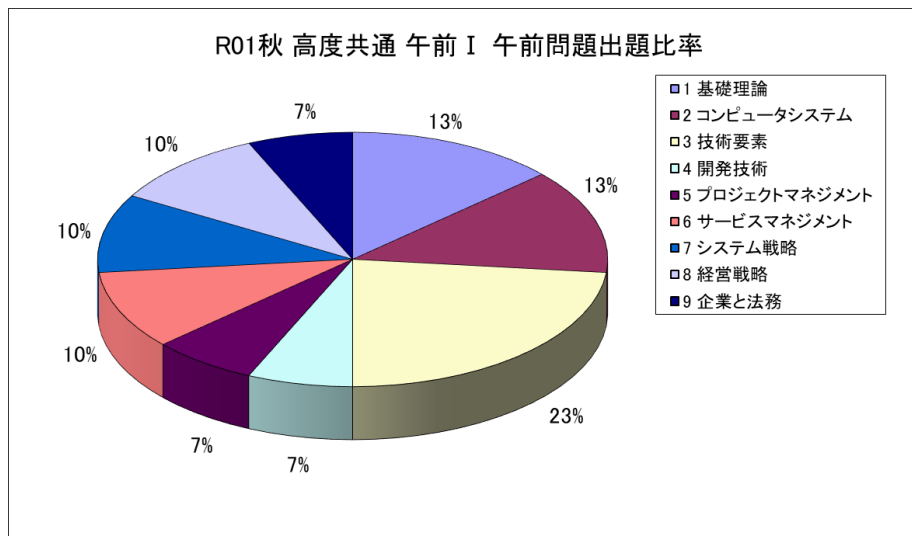
問題内容は、文章問題は21問(前回17問から増)、用語問題は1問(前回3問から減)、計算問題が5問(前回3問から増)、考察問題が3問(前回7問から減)でした。これらは毎回増減があります。

- ・問題は出題範囲からほぼまんべんなく出題されますが、今回は、ヒューマンインタフェース、マルチメディア、技術戦略マネジメントなどからの出題はありませんでした。
- ・過去問題が毎回約7割ありますが従来よりもやや難問題が選ばれていたといえます。また、これまで出題されることがない内容の新傾向問題が増え、全体としてやや難の試験だったと思われる。
- ・重点的に出題されるセキュリティ分野の出題数は前回と同じ4問でした。
- ・新傾向問題は次の6問で、これまで平均4問程度なので多く出題されたといえます。

(新傾向問題)

- 問 3 AI の機械学習における教師なし学習
- 問 11 フォワードプロキシの説明
- 問 18 PMO の役割の説明
- 問 22 システム監査手続で利用する技法
- 問 25 ファウンドリサービスの説明
- 問 28 RPA の説明

令和元年秋期の高度試験共通 午前 I 問題出題比率



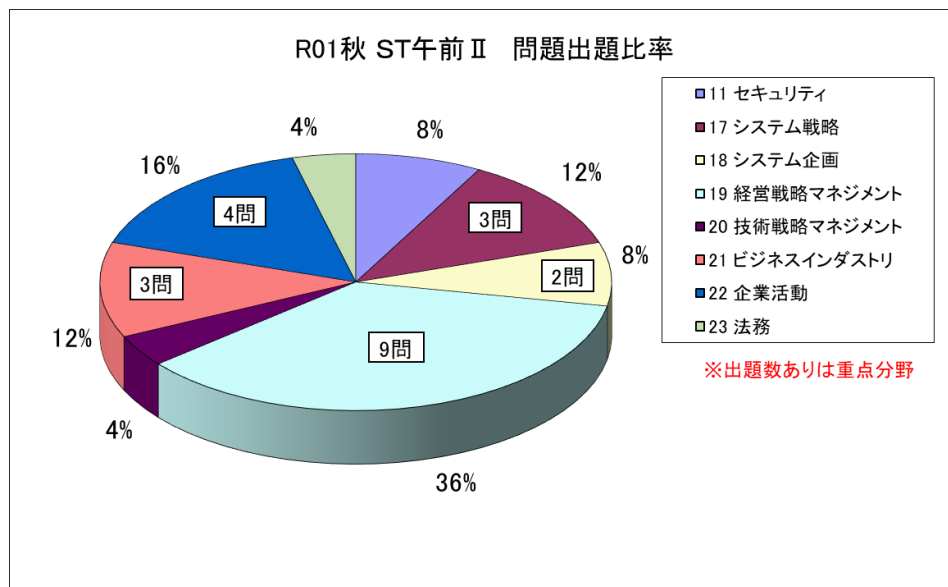
(午前 II 試験 (専門知識問題))

ITストラテジストの午前 II 試験の重点出題分野は、システム戦略、システム企画、経営戦略マネジメント、ビジネスインダストリ、企業活動の 5 分野ですが、実際には経営戦略マネジメントが 9 問と最も多く、他の重点分野の 2~4 問と大きく出題数が異なります。毎回、新しい内容が出題されており、日頃から新技術・知識の理解を深める必要があります。

新傾向問題としては次の 5 問がありました。前回より増えています。

- 問 02 オープンデータバイデザインの取組
- 問 11 目標管理の仕組み OKR における目標と主な結果
- 問 12 シックスシグマの改善サイクル DMAIC の活動フェーズ
- 問 16 スマートコントラクトの説明
- 問 20 ベイズ統計の説明

令和元年秋期の IT ストラテジスト試験 午前Ⅱ問題出題比率



(午後Ⅰ試験 (記述式))

午後Ⅰ問題の出題分野とテーマは、次のとおりです。DX 関連題材でソフトウェアロボット、AI用データ収集、アダプティブラーニング、自動運転技術など、4問全てが新しい技術を含めた事例になっています。

問1 デジタルトランスフォーメーションの推進 (化学品メーカー) 普通

シェアードサービス, DX の推進, 輸出入業務の現状と課題, IT 活用の検討, ソフトウェアロボット, OCR, 品質向上させる業務, ロボット作業, 実証実験, プロセス改善, 本格導入の計画, 統制課題, 稼働リスク

問2 保険会社の新事業の企画 (損害保険会社) 普通

新医療保険の概要, 開発の狙い, 試行販売の狙い, センサデバイスによるデータ収集, データ活用方法, AI 活用, 新事業の取組, 疾病情報の学習理由, 健保組合要望の対応, 追加機能, 取組の狙い

問3 予備校の合併に伴う IT を活用したビジネスモデルの見直し (大手予備校) やや易

各校のIT活用状況と課題, ビッグデータの活用, 学生のニーズ, AIによる苦手傾向分析, 講座新設と見直し, アダプティブラーニング活用促進, 改善事項, 適応度の向上, 学習支援システムの強化, 時間記録

問4 自動運転技術を用いた海底探査システム (自動車電装部品メーカー) やや難

自動運転技術の要件, 移動手段構想, 会社の現状, 海底探査の状況, 技術的課題の調査, 事業性の検討, 契約内容, コスト低減理由, リスク, 事業計画, 開発体制, 拡大戦略, 会社の状況, 新技術の提供

**(午後Ⅱ試験(論述式))**

午後Ⅱ問題の出題分野とテーマは次のとおりです。問題文には、AI、IoT、AR 機器など新しい技術要素を含めた説明になっていますが、論述する内容はオーソドックスで、前回試験と同じ傾向です。

**問1 デジタル技術を活用した業務プロセスによる事業課題の解決について**

事業の課題・背景・特性，活用した技術，業務プロセス内容，実現性の担保，貢献内容，改善内容

**問2 ITを活用したビジネスモデル策定の支援について**

経営課題・背景，事業特性，策定内容（顧客，価値提案，収益，利益確保），活用 IT，立上げ施策，改善内容

**問3 組込みシステムの製品企画における調達戦略について**

企画概要・背景，自社保有技術，調達先選定方針，専門家要請，調達リスク，配慮の評価，副次効果，展望



itec